

心病む人の就労支援

社会目指し喫茶店

神経衰弱、対人恐怖症、うつ…

「関係の柄」といわれる精神障害者の人々の就労を支援してきた仙台市のNPO法人が昨年12月、仙台市若林区に喫茶店「太陽とオリブ」を開いた。6人の訓練生と同法人のスタッフが働く。NPOの菊地茂理理事長(50)は「社会に出る前に思っく場所になって欲しい」と願っている。(磯部佳孝)

仙台のNPO法人

あるがままに 人格受け入れ

「いらっしやいませ。何になさいますか」。入店すると、店員のサチコさん(24)が元気な声でラウンジメニューを勧められた。活動に共感した支援者から仕入れた食材で作った料理は、温かい味

がした。喫茶店を開いたのは「シャロームの会」。行政書士の菊地さんが立ち上げたNPO法人だ。

菊地さんと精神障害者との交流は、00年、統合失調症の女性の相談を受けたのがきっかけだった。初めは職歴制度を利用して行政書士事務所に精神障害の人々を受け入れた。

職歴制度とは、社会復帰を目指す精神障害の人々が、復帰のための仕事の場を提供してくれる事

喫茶店「太陽とオリブ」とNPO法人「シャロームの会」のメンバー11日、仙台市若林区で

業所に通いながら社会への適応力を高めていく制度。事業所には仙台市や県から訓練委託料が支払われる。

さらに活動を広げたい。03年12月にNPO法人を設立。04年4月、同法人で小規模作業所「アトリエぶどうの木」を開いた。これまで約40人の訓練生が、会員150人への米や野菜の通信販売や小物製作に励んできた。

精神障害の発症の原因は様々でも、「自分は必要のない人間だ」と自己否定する点が共通する」と菊地さん。

「過去は変えられない。その人のあるがままを受け入れよう」。会をシャロームと名付けた。ヘブライ語で「大丈夫」という意味がある。

「薬を減らすことにぜひこだわりたい」。サチコさんを救った訓練生仲間言葉だ。対人恐怖症とうつとの鎮静剤など錠剤を服用していた。「今のままでもいいんだ」。心が軽くなった。サチコさんと一緒に接客していたのはカオリさん(39)。神経衰弱を患い、菊地さんの元で訓練生として働いていた。仕事ぶりが認められ、04年3月に菊地さんの行政書士事務所就職。現在、事務所員としてNPOの活動を手伝っている。支援者以外にも若い女性や学生が料理を食へにやってくる。「ありがたいよ。おいしかったよ」。お客様の反応がうれしい。カオリさんは「菊地さん夫妻や訓練生の仲間たち。病気になる前から会えた人々がいる」と話した。

喫茶店の営業時間は午前11時半～午後4時。定休日日は日祝日と水曜日。問い合わせは同法人(022-2933-3005)まで。